

2 単元構想表（全9時間）

学習活動 (時間)	子供の意識の流れ（ は学習問題）	支援 (■ は子供の感情を引き出せるであろう資料)
問題をつかむ (1時間)	どうやって魚をとってくるのかな。 魚って腐るから、新鮮じゃないといけないよね。 どうやってお店まで運んでくるのかな。 どうして魚を新鮮なうちに食べられるのだろう。 新鮮な魚はどのようにしてわたしたちに届けられているのだろう。	○ A店のメニューを産地ごとに地図上に位置づける活動を設定することにより、A店には様々な種類の魚が様々な地域から届いていることに気付くことができるようにする。 ■ A店のメニューと産地を表示した資料 ■ 世界地図 ■ 日本地図
予想をたてる 調べ方を決める (1時間)	学習問題について予想をして、学習計画を立てよう。 (詳細は、4 本時の授業デザインシートを参照。) 漁師さんは必ずいるはずだ。 何か魚に工夫しているのかな。 どうやって運んでくるんだろう。 どんな人がどんなことをしているのか調べていこう。 マグロってそもそもどうやってとるんだろう。	○ 「わたしたちがA店でマグロのお寿司を食べるまでに、どんな人がいるのかな。」と問うことにより、多くの人の関わりによって届けられているのではないかという見通しを持つことができるようにする。 ■ 海の写真 ■ A店の写真 ■ 等身大のマグロの模型 ■ マグロの寿司の模型
調べたしかめる (4時間)	マグロってそんなにとれるんだ。 いろんなとり方があるんだね。 漁師さんは多くの工夫をしているね。 とった後のマグロってどうなるんだろう。 漁師さんがすぐに冷やすから鮮度が保たれるんだ。 漁師さんはとった後も多くの工夫をしているね。 とったマグロはせりにかけられて値段が決まるんだ。 加工工場の人が素早く氷と一緒に箱詰めしているよ。 マグロって大きいから切り分けられていくんだね。 とってから届けるまでに多くの費用もかかるんだ。 遠く離れた場所から、どうやって徳島まで届けるんだろう。 トラックだけじゃなく、船でも運んでるんだね。 運送会社の人も届けるために関わっているんだね。 トラックにも保冷の工夫があるから新鮮なんだね。 マグロってとれる量がだんだん減ってきているんだ。 このまま減ると困ったことが起こりそうだね。 マグロの養殖に取り組んでいる大学があるんだ。 漁師さんだけでなく、育てる人も関わっているんだね。 ここまで学習してきたことをまとめよう。	○ マグロの漁獲量を表した資料を提示することにより、どのような方法でとっているか疑問を持つことができるようにする。 ■ マグロの漁獲量の推移 ○ 下記に示した資料を提示することにより、新鮮に素早く届けるには工夫があること、また、様々な人との関わりがあるとともに様々な費用がかかることに気付くことができるようにする。 ■ 魚の鮮度が保たれる時間 ■ せりの写真 ○ 「魚が鮮度を失うまでの3日間でのどのような行程があるのかな」と問うことにより、前時の学習を生かしながら行程について予想を立てることができるようにする。 ■ 前時の板書 ■ 日本地図 ○ マグロの漁獲量の推移を表した資料を提示し、「マグロのとれる量が減っているけど、このままでもいいの」と問うことにより、養殖の必要性について気付くことができるようにする。 ■ マグロの漁獲量の推移 ■ 近畿大学のマグロ養殖
みんなで考え話し合う (1時間)	予想では考えつかなかった行程がたくさんあったね。 いろんな人がマグロを届けるまでに関わっていたね。 それぞれの人がそれぞれの立場で工夫していたね。	○ 「どうしてわたしたちは新鮮なマグロを食べることができるの」と問うことで、背景には水産業に関わる人々の工夫や努力があることに気付くことができるようにする。 ■ A店のメニューを位置づけた地図 ■ 等身大のマグロの模型 ■ A店の写真
ひろげ深める (2時間)	たくさんの人の工夫や努力のおかげで、わたしたちは新鮮な魚を美味しく食べることができているんだね。 世界全体を見ると、水産物の消費量は増えてきているんだ。 マグロはとれる量が減っていたよね。 養殖だけでは追いつかないかも。 他にどんな取組があるのかな。 さいばい漁業というのがあるんだ。 環境を守る取組も行われているんだ。 SDGs にも関係ありそうだね。 自分たちにできることは何かないかな。 海を汚さないようにすると、環境を守れるね。 国内の魚をたくさん食べて応援することができるね。 学んだことを発信することもできるね。	○ 下記の資料を提示することにより、安定した水産業を行うには課題があることに気付くことができるようにする。 ■ マグロの漁獲量の推移 ■ 世界の水産物の消費量の変化 ○ 生産者と消費者の立場を黒板に提示し、「自分たちにできることはないかな」と問うことにより、学習を振り返り、自分ができることを考えることができるようにする。 ■ これまで提示してきた生産者の取組